

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ B					単位	1.0
担当教員	大橋 徹也						
授業形態	実技・実習	開講期間	前期	配当年次	3	授業番号	2511

●授業のテーマ

実習先の業務への理解、実習課題の設定、実習計画の作成

●到達目標

実際に実習を行う現場の仕組みや関連業務を理解し、ソーシャルワークの展開に必要な知識・技術について理解する。

各自の関心から、経験・習得する課題を明確にして「実習計画」にまとめる。

「実習記録」の内容と記入方法、実習での留意事項について理解し、実習課題の達成に向けた意欲を高める。

●学習内容(授業概要)

実習の事前指導に位置づける。各自の実習分野・実習先における利用者と各種業務をつかみ、そこでのソーシャルワークに必要な知識・技術について理解を深める。また、社会福祉士に求められる資質や倫理、自己課題の把握など総合的な力量形成への自覚を高める。

それらをふまえて個々の実習に向けた目的や達成課題を具体化し、「実習計画」の作成に意欲的に取り組む (Project Based Learning)。

●学習内容(授業計画)

1. 全体オリエンテーションー実習に向けた事前の準備・手続き
2. 実習分野の特徴, 最近の動向等について
3. 実習先への理解 (利用者理解を含む)
4. 実習先での関連業務 (介護・保育等) とソーシャルワークへの理解
5. 実習先での相談援助に係わる知識・技術への理解
6. ソーシャルワークの実際についての学習
7. 現場職員による講演等
8. 各自の実習目標の設定・交流①
9. " ②
10. 「実習計画」について
11. 「実習計画」の作成指導 ①
12. " ②
13. 個人情報保護, 職業倫理, 就業規則等について
14. 「実習記録」の記録内容・方法
15. 実習直前の留意事項等

※第1回目は、実習生全員を対象としたオリエンテーションとし、それ以後は実習生を実習分野ごとに分けて指導していく。なお、上記の授業計画は、さらに各実習分野の特性をふまえた構成・順序に組み替え、それを分野別の指導において示すこととする。

※「実習計画」の作成指導については、上記の授業計画以外に個人指導の時間帯を随時設ける。

※実習先指導者との協議や現場での説明・指示等を要する指導 (事前訪問、体験的参加、事前オリエンテー

ションなど)については、別の日時・場所を設定して行う。

※実習期間中には担当教員が週1回以上の巡回指導を行う。それが事情により困難な場合には、少なくとも1回以上の巡回指導を行った上、帰校日の設定による指導に替える場合がある。

●準備学習・事後学習の内容

準備としては、各自の実習分野・実習先に関する法制度上の位置づけや、利用者等のニーズの特徴と変化、社会福祉士が展開するソーシャルワーク(他職種との連携を含む)の実際などを調べる。一連の指導を経て、自分が取り組む課題を「実習計画」に具体化し、留意事項も再度確認しておく。

●成績評価方法・基準

次の2点を目安として総合評価する。

- ・実習先に関して調べた内容、ソーシャルワークに必要な知識・技能や自己の資質等を高める目的意識性(5割程度)
- ・「実習計画」の内容(5割程度)

●テキスト(必携)

授業時に指示する。

●参考文献/その他

『ソーシャルワーク実習の手引き』『ソーシャルワーク実習記録』(本学で配布予定)
配付資料・プリント等

●履修上の注意

実習に臨むための事前の指導として毎回不可欠な内容になるので全て出席することが大前提である。やむを得ず欠席する事情が生じた場合には、必ず指導担当教員と相談し、補講時間等の指示を受けること。